



発行 国立市公民館 〒186-0004 国立市中1-15-1 ☎ 042-572-5141 FAX 042-573-0480 休館日：毎週月曜日

8月 平和講座「被爆体験を聞く(つづき)」講演要旨

# 二度と繰り返さないために、語り継ぐ

お話 桂茂之、平田忠道 (国立原爆被爆者の会 くにたち桜会)

広島と長崎に原子爆弾が投下されてから67年がたった今年、平和講座では国立市内にお住まいの被爆者お二人に、それぞれの体験をつかがいきました。核兵器の残忍さや当時の悲惨な状況が直に伝わり、平和について身近に考える機会となりました。

## 私の8月9日

—長崎での被爆体験—  
桂茂之(東)

### 造船所への運搬作業

私は、長崎で被爆しました。被爆したときは14歳、中学3年生でした。1945年(昭和20年)8月9日、午前11時2分、アメリカが原子爆弾を投下して、地上500メートルぐらいのところで爆発。長崎は数千度といわれる熱線と爆風により壊滅的な被害を受け、多くの人々が無差別に殺傷されました。今も放射能の影響による後遺症で苦しんでいる人がたくさんいます。私のがんを患いました。

当時、長崎には軍用兵器や



艦船を製造する製鋼所や造船所などの工場がたくさんありました。これらは、原爆が落とされた浦上地区に集中していました。また、これらの工場地帯と官庁街周辺の住宅は、爆撃による火災からの延焼を防ぐため、強制的に退去させられました。我が家は長崎市役所の近くだったのでその対象となり、郊外に引っ越しました。

その後ますます戦争がひどくなり、長崎三菱造船所の部品を学校で生産するために、我が学校に工場の機械が移されました。生徒に製造の方法を教えて、できた製品を本工場の三菱造船所へ持っていくのです。私は製品を大八車という大きな車輪がついた運搬具に載せて、学校から三菱造船所まで運搬する係でした。造船所では海軍の特攻隊の部品を作っていました。

### 爆風に襲われて



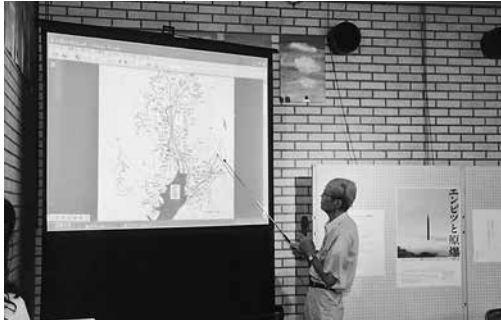
8月9日、その日は空襲がありまして、学校でできた製品を運ぶのに、いつもより1時間くらい遅れました。暑い日だったものですが、水屋に寄って10分ぐらい休憩しました。

長崎駅近くの中町教会にさしかかったとき、爆音が聞こえたので空を見上げました。白い雲が一面に広がっていました。またまた雲の間に青空が見えるところがあり、そこからパラシュートが落ちてきました。一緒にいた友人に「落下傘じゃないか」と言った途端に閃光が走り、その直後ものすごい爆風が襲ってきました。私はその爆風で飛ばされて、教会の側溝に落とされました。しば



つらい被爆体験を語ってくださった平田さんと桂さん

らく気絶しており、気がついたときには空は真っ黒。夜みたいになっていました。真っ黒の空に真っ赤な太陽が見えました。その後、雨が降ってきました。放射能の黒い雨です。そこで我に返って周辺を見たら、もう全く変わった状態で、いろいろなものが道路に落ちてきている。周辺は静寂そのものの状態でした。大八車を動かすのが難しいので、とりあえず学校へ戻ろうと、学校まで部品を持ち帰ることにしました。その途中で長崎県知事官舎の防空壕に飛び込み、しばらく休養させてもらいました。そこに次から次に被災した人が入ってきました。その人たちは皮膚がただれ、ひどくやけどしていたので、大きなショックを受けま



地図から当時が蘇る



### 長崎市内で見た景色

後でわかったことですが、我々が歩いていた地点はたまたま原爆が投下された地点との間に山の稜線があったために、直接熱線を受けなかったようです。氷屋での10分が幸いしました。熱線を受けると、大やけどをして皮膚が全部はがれ、髪の毛は縮れるという状態になって、人ではないような感じになってしまふ。そういう人が防空壕に次から次に入ってきました。それはもうひどい光景でした。

線路伝いに帰るのがわかりやすいと思い、山越えて浦上へ向かいました。山を登りつめて浦上方面を見たところ、一帯が完全に破壊され、ところどころで火の手もあがっていました。道を歩いていくにつれ、先に見たようなやけどをした人や怪我をした人が、たくさん道の両側に座ったり横になったりしていました。瞬間的に家が潰れたため、多くの人が生き埋めの状態になって動けなくなり、その人たちが、道を歩く我々に向かって「助けてくれ」と叫ぶ声が聞こえました。しかしどうすることもできない状況でした。このように道なき道を午後2時から6時ごろまで徘徊して、自宅に帰り着いたのが午後9時近くでした。遠く長崎市内の方向の空を見ると、夕焼けのように真っ赤になり、大きな火災が発生していることがわかりました。家の下敷きになっていた人々の消息を思うと、申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。その後一週間ぐらいは体調がすぐれず寝ていましたが、10日を過ぎたところで学校や親せきの動向が気になり、長崎市内へ歩いて行きました。被爆当日には見なかった、悲惨な光景が目に見え込んできました。



### 次世代に伝えていく使命

このように残忍で悲惨な地獄を思わせる核兵器の使用や生産は絶対に許されないことで、この世界から無くさないといけないと切実に思います。初めての被爆者である我々は、その恐ろしさや無残な結果を、体験を通じて語り続けなければならぬと考えています。近年ややもすると、被爆したことについて、風化してしまうのではないかという感じもするので、次世代にこのことを語り続ける活動を徹底して実行していきたいと思っています。



### 勤労動員

### 私の8月6日

—広島での被爆体験—  
平田忠道(富士見台)

私は、中学3年生のときに広島で被爆しました。もともと私たち家族は東京に住んでおり、父が広島に単身赴任し

ていましたけれども、東京はいつ空襲になるかわからないというところで、一家で広島へ転居しました。転居した後、今度は父に召集令状が来てしまい、父は朝鮮へ行きました。中学1年生の弟は農村研修で、小学校4年生の妹は学童疎開があり、家族と別れていきました。家には私と母親、それから4歳の弟の3人になりました。8月6日、言葉では言いあらわせないぐらいの、ひどい地獄でした。忘れもしません。私は三菱精機の広島製作所に勤労動員へ行っていました。空襲が激しくなっていました。空襲がその工場を可部へ疎開させるための作業をしていました。8月6日、8時15分ごろです。これから作業をしようかと言っていたときに爆音が聞こえました。この日は雲一つない、大変いいお天気でした。見上げると、B-29の機影が見えたんです。見えたと同時にピカッと、大変な閃光を浴びました。途端に農家の土間になだれ込みました。今度はものすごい爆発音です。何だ何だと、僕は一斉に外へ出て、広島市内の方を見ました。きのこと雲とよく言われますけれども、あんなものはありません。入道雲がどんどんと大きくなっていく

わけです。みんなでも相談して、これはもう作業どころではない、家へ帰ろうと、同じ方向の連中で歩き出しました。広島の方からは、いろいろな方が逃げてくるんです。最初に逃げたところは、まだやけどが軽いところですが、市内にどんどん向かっていきますと、やけどがひどくなっています。焼けた人たちは歩けないで、堤防や河原にうずくまっている状況だったので。帰る道中、陸軍の兵舎がありました。やけどをした兵士は「水をくれ」と叫んでいました。他の兵士が「水を飲むと死ぬんだぞ」と言っていて、大きな声を張り上げていました。後で考えてみたら、何で水をやらなかったのかと。どうせ死ぬんですよ。死ぬんだったら、一滴でも二滴でも水をあげたっていいじゃないですか。あの悲惨な状況のときには、せいぜい水でもあげたらよかったです。ではないかなと思っています。横川駅では石炭車とか貨車、それから機関車が赤く燃えているのです。その日は友達のうちへ泊めていただきました。私は、母と弟がどうなっているのか心配でしようがありませんでした。



### 母と弟を探して

8月7日は、その友達のお母さんに弁当を作っていたとき、市内へ入りました。市内はほぼ燃え尽きていました。

道中、焼かれた電車がありました。真つ黒こげです。その中に乗客もいたんですが、運転席のほうへたたくつけられていて、みんな真つ黒こげでした。地獄じゃないかと思つたくらいです。その辺の家屋は全部焼けて廃墟と化していました。その廃墟と化した家屋の下には、たくさんの人がいたはず。そういつた人たちも一瞬にして犠牲になったんです。

市の中心地を通って、我が家へたどり着きました。門柱と防火用水で我が家とわかりました。この辺は上から原爆の圧力で家屋がつぶされて延焼したと、近所の人に聞きました。方々から助けてくれという声や悲鳴が聞こえたと。ところが、「君のうちは声が聞こえなかったよ」と。どこかへ2人で出かけているのかなと推察しましたが、これは全くの間違いでした。8日も我が家に行きましたけれど、2人とも帰ってきません。毎日、片付けながら、いつか帰って来るんじゃないかと思ひ待って

いたんですけれども、無駄でした。その後は、けが人の収容所を回り始めました。これも筆舌に尽くしたいほど大変なことでした。焼けた母親が自分の乳飲み子をしつかり抱きしめている光景を見たときは、この世の中でだれがこんな残忍なことをするのかと怒り狂いました。母と弟と似た人が収容されているのではないかと思つて、一人ずつ顔を見ました。みんな違つていました。それから幾つかの収容所へ行きましたが、どこも同じ状況でした。

広島市内は死臭で生臭い、何とも言えないにおいが充満していました。相生橋のもとに大きな穴を掘って、遺体を焼いていたんです。

私は父の会社の社宅へ拠点を移し、そこから市内のほうへ歩いて肉親探しを続けました。約1カ月が経つたころ、妹のところへ行きました。死んだとは言えませんでした。お母さんと弟はいないよと、それだけしか言えませんでした。妹はこくりとうなずいただけでした。その後、中学1年の弟も帰ってきたので2人で方々歩きましたが、もうこれ以上探しようがない。そこで、父の親類の応援を頼もうと決心して、広島を発ち徳島へ向かいました。

叔母は、とにかくびつくりしていました。僕らはもうこの世にはいないんじゃないかと思つたと。父と妹も徳島に戻りましたが、その後、父は一人で広島へ行きました。家の中庭あたりを掘つたら骨があったと。母と弟は一緒にいたらしいと。焼けた海苔の缶2つに骨を入れて持つて帰りました。

ただ、どんな死に方をしたのかわかりません。熱風で即死したのか、家が倒壊して火が襲つてきてはい出せなかったのか。

何の罪もない多くの善良な一般市民が、一発の原子爆弾により、全く逃げることもできず、無差別に、性別も顔もわからないほど変わり果てて、犠牲になりました。幼い子供たちは、何のためにこの世に生を受けたのでしょうか。小さな生命を奪う残忍さと悲しみで、言葉もありませんでした。

母は当時39歳、弟は4歳です。2人とも、あまりにも若過ぎる、早い別れでした。母は戦争が早く終わることを夢見ていました。原爆投下により、広島で14万人、長崎で7万人の無抵抗な一般市民が犠牲になりました。せめて、10日早く降伏していれば、広島、長崎の悲劇は回避され、多くの犠牲者は出なかつたのです。



さまざまな世代の方が参加

か、家が倒壊して火が襲つてきてはい出せなかったのか。



### 過ちを繰り返さないために

何の罪もない多くの善良な一般市民が、一発の原子爆弾により、全く逃げることもできず、無差別に、性別も顔もわからないほど変わり果てて、犠牲になりました。幼い子供たちは、何のためにこの世に生を受けたのでしょうか。小さな生命を奪う残忍さと悲しみで、言葉もありませんでした。

母は当時39歳、弟は4歳です。2人とも、あまりにも若過ぎる、早い別れでした。母は戦争が早く終わることを夢見ていました。原爆投下により、広島で14万人、長崎で7万人の無抵抗な一般市民が犠牲になりました。せめて、10日早く降伏していれば、広島、長崎の悲劇は回避され、多くの犠牲者は出なかつたのです。

広島へ行くと同爆の慰霊碑があります。慰霊碑の碑文「過ちは繰り返しませんから」を胸に刻み、人間どうしが殺し合う戦争と、原子爆弾の悲惨さを二度と体験することのないよう、若い世代に私は訴えていくつもりです。

(この講座は8月11日(土)に実施しました)

### アンケートより

○同じ市民の中にそうした(被爆)経験をお持ちの方がいて、悲しい歴史を身近に感じました。

○戦争体験のない私たちにとつて、お二方のお話を聞けたことは、今を生きる私たちがどうしたことをしていけばいいのかを考え、る良いきっかけになりました。

○教科書で見た新聞で読む8月6日、9日と、実際に被爆された方の語る8月6日、9日は全く別ものだと感じました。

○被爆者の生の声、ずつしりと重く、本で読んだり映画を見ることでは得られないものがあります。多くの人、特に子ども達に聞いてもらいたいお話でした。

○実体験のリアルなお話を聞き、原爆・原子力(核)・戦争の問題を改めて考える機会になりました。

○被爆体験を孫に聞かせられて良かったと思います。戦争の恐ろしさや平和の尊さを引き継いでほしいと思います。

○戦後67年ともなると忘れてしまいがちであるが、絶対に忘れてはいけないと痛感した。

○まずは知ること・風化させないことが大切だと思いました。

シネボックス (CINEVOX 公民館シネマトーク)
『ただいま それぞれの居場所』
2010年 カラー 96分 ビデオ

製作 大宮映像製作所
監督・製作 大宮浩一 プロデューサー 安岡卓治
取材ディレクター 北里宇一郎

ケア付き高齢者福祉施設「元気な亀さん」を舞台に、生き生きとした人間讃歌をうたいあげた名作『よいお年を』(1996年)『青葉のころ よいお年を2』(1999年)の製作スタッフが、介護保険制度導入から10年目の介護の現場を追ったドキュメンタリー第3弾。

設立から23年になる「元気な亀さん」に加え、若者たちによって設立された3つの施設を舞台に、制度とシステム、医療と介護、家族と社会を巡る悲喜交々の人間ドラマを、温かく優しい視線で見つめていきます。

映画の話 「介護と若者たち」

お話 北里 宇一郎 (脚本家)

とき 10月28日(日) 昼2時~4時半
ところ 公民館 地下ホール
定員 85名(当日先着順)
\*ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。

男性の料理教室

=サバのムニエル・カレー風味ソースかけ=

旬のサバを洋風おかず仕立ててみましょう。サバを三枚におろし、小麦粉をふってフライパンで焼きます。カレー風味ソースは電子レンジで作ります。

その他のメニューはごはん、スープ、サラダ、フルーツの予定です。

魚をおろしてみたい方、どうぞご参加ください。

講師 北川 みどり (管理栄養士)

とき 10月27日(土) 朝10時~昼1時
ところ 福祉会館 3階料理講習室
定員 20名(先着順)
費用 一人800円(予定額)



※10月25日(木)までに公民館へお支払いください。お支払いのない場合は、キャンセル扱いになります。受付時間:朝9時~夕5時(月曜日以外) 食材購入後のキャンセルは実費を負担していただきます。精算は教室の当日に行います。

持ち物 エプロン、頭巾(タオルでも可)、筆記用具、ポリ袋(ゴミ持ち帰り用)
申込先 10月9日(火)朝9時~ 公民館(572)5141

環境講座

クモから見る世界



国立市南部の豊かな自然の中で、今回は「クモ」に注目して、散策をします。意外と身近なところに多いクモの生態について、日本のクモ研究の第一人者である新海さんにお話をうかがいます。秋空のもと、クモの不思議な世界をのぞいてみましょう。

講師 新海 栄一 (日本蜘蛛学会)

とき 10月20日(土) 朝10時~12時
集合 郷土文化館 入口 ロビー
コース 郷土文化館~古民家周辺 定員 30名
持ち物 筆記用具、飲み物、虫よけ
\*お持ちの方は図鑑、ルーペ、カメラなどをご用意ください。
服装 長そで・長ズボン
申込先 10月9日(火)朝9時~ 公民館(572)5141



\*雨天の場合は、古民家で講師の話を聞きます(集合は郷土文化館)。

くにたちブッククラブ さまよえる心と言葉2

吉田健一 『旅の時間』

(講談社文芸文庫)

講師 傳馬 義澄 (國學院大學名誉教授・日本近代文学)

とき 10月11日(木) 夜7時半~9時半
ところ 公民館 3階講座室
申込先 公民館(572)5141
\*今回は11月8日(木)岡本かの子「家霊」「老妓抄」(ハルキ文庫『家霊』所収)です。



図書室のつどい

「人生80年時代」の生き方指南

—第二の人生、ここからが面白い!—

講師 川北 義則 (エッセイスト)

長寿大国日本では、定年後の人生は20年以上あります。川北さんは著書の中で「これは「余生」ではなく、「まったく新しい人生」と考えるべき」、「一生で一番楽しい時期」と書かれています。

各年代の生き方をテーマに著書を書かれている川北さんからお話をうかがい、生活も仕事も充実させた、セカンドライフの生き生きとした過ごし方をご一緒に考えてみませんか。

〈川北さんの本〉『55歳から始める最高の人生』(三笠書房)、『みっともない老い方』(PHP 研究所)ほか多数

とき 10月27日(土) 昼2時~4時
ところ 公民館 1階市民交流ロビー
\*ご自由においでください。

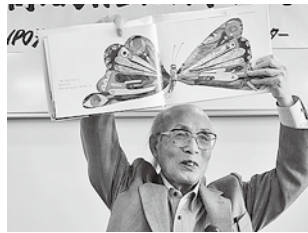
〈いま、教育をみつめる〉 映画とお話

ドキュメンタリー映画『かすかな光へ』  
～学ぶこと、生きることをみつめて～

戦前戦後を通して日本の社会と人間を見つめ、教育のあり方を問いつづけてきた教育研究者・大田堯さん。今回は、その大田さんの思索と実践の軌跡を映し出したドキュメンタリー映画『かすかな光へ』(森康行監督、2011年)を上映します。

「教育は命と命のひびきあい、創造活動・アートなんです」。このように語りかける大田さんの教育思想は、3.11以後とりわけ大きな意味をもつことになった「命」をつなぐ営みとして教育や学習の本質を捉えています。

上映後は、大田さんをよく知る公民館運営審議会委員の山崎功さんに、「共生」と「共感」の地域をつくる公民館の課題と結んでお話ししていただきます。



お話 山崎 功 (元「月刊社会教育」編集長、  
国立市公民館運営審議会副委員長)

とき 10月14日(日) 昼2時～4時

ところ 公民館 地下ホール

定員 85名(当日先着順) \*ご自由においでください。

\*この講座は公民館運営審議会委員との共同企画です。

ヘルマンハーブコンサートの様子



公民館ロビー

“涼み処”好評御礼!



りください。

秋は文化祭等の展示でロビーが賑わいます。これからも、公民館へぜひお立ち寄りください。

7月～9月、公民館ロビーに「市民涼みの広場」を開設し、多くの方にご利用いただきました。

涼みにいらした皆さんが自由に使える「うちわ」をしようがいしや、青年教室で作成したり、9月にはロビーコンサートを開催したりと、公民館らしい工夫をこらしてしました。

秋は文化祭等の展示でロビーが賑わいます。これからも、公民館へぜひお立ち寄りください。

困難を抱える若者の家族や友人を  
対象にしたセミナー  
**ひきこもる若者と家族のかかわり**  
～地域で考える若者支援～

お話 佐藤 真一郎、高橋 薫  
(NPO 法人文化学習協同ネットワーク)

外に出ることがあっても家族以外の人との接点が極端に少ない、人とかかわるのが怖いなど、社会的ひきこもり状態の若者が増えています。今回は、ひきこもる若者の理解と支える家族のかかわり方について考えたいと思います。

身近なご家族やご友人にそうした「生きづらさ」を抱えた若者はいませんか。差支えなければ講座でご家族の状況などをお話ししていただいても構いません。また、お話を聞くだけでも結構です。お気軽にご参加ください。

とき 11月3日(土) 朝10時～12時

ところ 公民館 3階講座室 定員 20名(先着順)

申込先 10月7日(日) 朝9時～

公民館 ☎ (572) 5 1 4 1

【くにたち市民メディア構想会議】  
**ヒトをつなぐ地域メディアの事例研究**  
—「kunitter」ってなに?—

お話 三澤 拓也 (クニッター代表)

これまで公民館では、マスメディアの報道や溢れる情報を読み解く力、市民のメディア発信の可能性などを考える連続講座を実施し、市民による議論の場を重ねてきました。

今回は、地域における「市民メディア」作りのプロセスを、市内の先行する事例に学びながら考えたいと思います。

三澤さんは、ツイッターを活用した国立市の地域ポータルサイト「kunitter」の立ち上げや運営に関わっています。サイトを立ち上げた経緯や活動内容、今後の課題などについて、お話をうかがいます。

また、9月からコワーキング(共有)スペースの運用を始めた「くにたちNPO活動支援室」も見学します。

とき 10月26日(金) 夜7時～9時

ところ 富士見台一丁目集会所 定員 30名(先着順)

申込先 10月9日(火) 朝9時～

公民館 ☎ (572) 5 1 4 1



■富士見台一丁目集会所  
(富士見台1-8-4)

緑化ボランティア募集

# 公民館の緑化活動に参加しませんか

ボランティアを募って公民館の植栽の手入れをはじめから半年がたちました。敷地内の草取りから取りかかり、グリーンカーテンの設置、植木の剪定等を実施してきました。今後も定期的に活動を続け、公民館の植栽を少しずつ整えていく予定です。

今月は研修会も行います。活動にご興味のある方、協力していただける方はご連絡ください。



活動内容：植木の剪定、グリーンカーテンの設置、草花の栽培・手入れ、敷地内の除草など

活動頻度：月2回程度（水曜日1回、土曜日1回）

### ★緑化ボランティア研修会★

公民館のグリーン環境を再度検討し、自分たちの手でできる活動を佐藤さんのアドバイスをいただきながら考えます。植栽の手入れのコツも教えていただきます。

講師 佐藤 哲信 (NPO 法人日本公開庭園機構)

とき 10月24日(水) 朝10時～12時

ところ 公民館 3階講座室

対象 緑化ボランティアに関心がある方

問合・申込先 公民館 ☎ (572) 5141



ひょうたん苗植え中。  
(5月)  
和気あいあいと作業をしています。

## ～美しさとやさしさの国立～ 第57回市民文化祭に お越しく下さい！

10月13日(土)～12月9日(日)

期間中、公民館をはじめ市内各施設で、美術展、伝統文化行事など、さまざまな催しが行われます。

また、開催に先立ち、オープニング式典とプレ展示を行います。オープニング式典では、尺八といけ花による伝統文化のコラボレーションや、中国帰国者の皆さんによる水餃子作り&実食、ミニコンサートなど楽しい企画を準備しています。プレ展示では、市民文化祭に参加されるグループの発表内容や日ごろの活動等をパネルで紹介しています。

どなたでもお気軽にご参加ください！

### ◆オープニング式典・交流会◆

とき 10月7日(日) 朝11時～昼1時ごろ

ところ 公民館 1階市民交流ロビー

### ◆プレ展示◆

とき 10月7日(日)～10月13日(土)

ところ 公民館 1階市民交流ロビー

### ◆文化祭 10月～11月初旬の催し◆

合同いけ花展/国立市書道展/せいか展/音楽劇/

よさこいソーラン公開練習/バーレーンの母親像/

きものと民族衣装体験/振袖の着付け/

中国帰国者の方々によるライブコンサート

\*詳細は公民館にある日程表や、国立市ホームページ、「公民館だより」9月号などをご覧ください。

## 第50回東京都公民館研究大会 公民館は地域の絆！



公民館の現代的な役割を考える東京都公民館連絡協議会・東京都教育委員会共催の研究大会が開催されます。

昨年は国立市公民館も課題別集会『震災後』の社会と公民館の課題』を担当し、多くの方にご参加いただきました。

今年は午前中に全体会を行い、午後は3つの課題別集会に分かれて課題ごとにじっくり議論します。どなたでもご参加できますので、お気軽にお問合せください。

### ■全体会

講演 石井山 竜平 (東北大学教育学部)

### ■3つの課題別集会

○3. 11東日本大震災以後の公民館の役割

～地域・きずな～

○公民館との出会いから地域の活動へ

○公民館はじめの一步

\*詳細は公民館にある大会開催要項をご覧ください。

とき 12月9日(日) 朝10時～夕4時

ところ 東村山市立中央公民館

参加費 1000円

申込・問合先 国立市公民館 ☎ (572) 5141

申込締切り 10月26日(金)

# ひるば

(8ページにもあります)



色鮮やかなキバナコスモス—国立駅前一

撮影 佐藤千織さん (中)

## 宙の卵・気功太極拳へのお誘い

心と呼吸と体をつ一つにして動かしましょう。私という小さな自然を整え、大宇宙の法則とつながる感覚を身につけましょう。健康・美・強さはそこから生まれます。  
日時 火・土曜日朝10時～11時半  
場所 東福祉館  
連絡先 杉田(576) 0316

## 「太極拳友の会」会員募集

先生の指導のもと、太極拳を通じて会員相互の体力向上と親睦を図る目的で活動を続けています。お気軽にご参加ください。初心者歓迎、男女不問。参加費月500円。  
日時 毎週(水)朝10時または昼1時  
場所 総合体育館  
連絡先 板橋(576) 8502

## 国立グラウンドゴルフ木曜会

年齢を問わず誰でも簡単に楽しめる楽しいスポーツです。初めての方も気軽にでき、仲間と一緒に楽しめます。会員募集中です。あなたも一度体験してみませんか。  
日時 毎週月・木曜日朝9時半～  
場所 谷保第三公園 グラウンド  
連絡先 鈴木(572) 5631

## バードゴルフ会員募集

ゴルフ経験者はもちろん、初心者でも楽しめます。一本のゴルフクラブで羽根付きボールを打ちカゴに入れるミニゴルフです。用具は用意します(無料)。TBG協会  
日時 第二・三(水)朝9時～12時  
場所 谷保第三公園 野球場  
連絡先 石川(574) 9410

## 「シルバーキャンオン」会員募集

楽しいことをモットーに、35周年を迎えた男女混合の硬式テニスサークルです。今回は特に女性会員の募集をしています。仲間と共にさわやかな汗を流しませんか。  
日時 毎週土曜日  
場所 市民コート  
連絡先 前田(573) 4765

## パソコンフレンズ会員募集

初心者レベルから中級レベルまでの実力を養成できる学習サークル。趣味や就職・転職の方にも十分対応できる内容です。親睦をかねて楽しく学びませんか。  
日時 月3回 日曜午後  
場所 公民館 3階講座室(予定)  
連絡先 楠田(576) 4391

## ライフモア・パソコン会員募集

初心者レベルから中級レベルまで懇切丁寧に学べます。毎回の日替わり教材で確実に身につきます。自分のノートパソコン持参で一緒に楽しく学びませんか。  
日時 第一～第三金曜日昼2時～  
場所 公民館3階講座室など予定  
連絡先 藤浪(575) 3755

## 国立カラオケ愛好会 会員募集

坂本数馬先生のピアノ指導で楽しく歌っています。毎月の課題曲を、ピアノとテープで練習します。初めての方でも見学・体験入会大歓迎です。  
日時 第二・四火曜日 昼1時～  
場所 公民館 音楽室(予定)  
連絡先 持田(575) 4341

## 公民館運営審議会報告

9月11日(火) 第23回定例会を開催。委員12名、館長、職員2名が出席。傍聴2名。  
前回の議事録確認

### 報告事項

○公民館だより編集委員会  
9月号「イクメン」に聞く!」は面白そう。女性講座の公開講座だが、男性でも参加していいのかなとの声があった。  
○社会教育委員の会  
8月21日(火)開催。答申に向け、地域による学校支援の方策等、国立独自の取り組みを話し合い。  
○東京都公民館連絡協議会  
10月6日(土) 委員会第2回研修会の案内。

### 学習会の案内

10月14日(日)「いま、教育をみつめる」映画とお話開催。ドキュメンタリー映画『かすかな光へ』上映。お話は山崎副委員長。  
協議内容

・前回各グループから出された「公運審のあり方について」をまとめた案を検討。委員長からの提案に基づき、再度練り直すことに決定。来月に第28期として意見書を提出する。

・「第28期まとめ」「活動記録」について、委員長提出の案を討議。大筋で了承された。

次回は10月9日(火)夜7時15分から。傍聴歓迎。(井上)

# ひろば

(7ページにもあります)



銀杏色づく大学通り  
撮影 佐藤洋子さん(中)

## 人物画の会 展示会

月3回の人物画の制作会の成果に、風景画、静物画を加えて展示します。どうぞおいでください。絵の話をしたり、楽しい時間を共に過ごせれば幸いです。

日時 10月26日(金)～31日(水)  
場所 芸小ホール ギャラリー1  
連絡先 榎本(571) 0385

## 異文化コミュニケーション

「WING」10月の例会は、「マレーシアの文化と諸事情について」一橋大学留学生のサラ・ラシカさんにお話を聞きます。質疑応答が活発な楽しい会です。

日時 10月18日(木)夜7時～9時  
場所 一橋大学内 国際交流会館  
連絡先 芦沢(576) 0474

## 今月の公民館 (10月、11月初)

\*印は参加自由、他は事前申込みが必要です。

- 7日(日) 昼\* 第57回くにたち市民文化祭  
「オープニング式典・交流会」
- 11日(木) 朝 『イクメン』に聞く! ワーク・ライフ・バランスのすすめ」
- 11日(木) 夜 くにたちブッククラブ  
「吉田健一『旅の時間』」
- 14日(日) 昼\* (いま、教育をみつめる) 映画とお話  
「ドキュメンタリー映画『かすかな光へ』」
- 20日(土) 朝 環境講座「クモから見る世界」
- 26日(金) 夜 くにたち市民メディア構想会議「ヒトをつなぐ地域メディアの事例研究」
- 27日(土) 朝 男性の料理教室「サバのムニエル・カレー風味ソースかけ」
- 27日(土) 昼\* 図書室のつどい  
「『人生80年時代』の生き方指南」
- 28日(日) 昼\* CINEVOX 公民館シネマトーク  
「ただいま それぞれの居場所」
- 11月3日(土) 朝 「ひきこもる若者と家族のかかわり」

## 第17回くにしんぼクラブ オリガさんのロシア料理

お得意のロシアのぎょうざを教えていただきます。材料費800円。ゴミ袋とふきんをご持参ください。

## 『海の汚染、魚の汚染』上映会

フクシマ後の世界がどうなっているか。東京海洋大学名誉教授の水口憲哉さんへのインタビューDVD。上映時間64分。資料代500円。食と農をむすぶ会

日時 10月25日(木)夜7時～9時  
場所 公民館 3階講座室  
連絡先 事務局(576) 6075



## 「ひろば」投稿規定

市内の団体・グループ活動のお知らせの場です。原稿の締切りは、掲載希望月の前月7日の午後5時です(7日が月曜日の場合は、翌日の8日まで)。原則として掲載月の7日から翌月6日までのお知らせを掲載します。公民館備付けの原稿用紙に団体名・サークル名を含めてお書きください。氏名や読み方が難しい言葉にはふりがなをふってください。会員募集は6カ月に一回掲載することができですが、紙面の都合により翌月掲載となることがありますので、ご了承ください。

## 〈サークル訪問253〉 文月の会 (朗読)

「文月の会」は、約10年間続いた朗読の会が先生のご病気で解散になった時に、朗読を続けたい! という思いを持つ人たちによって8年前の7月(文月)に作られた自主グループです。その後メンバーは少しずつ入れ替わり、現在は女性4名で活動しているとのこと。8月の残暑厳しい日、公民館3階の実習室にうかがい、練習を見学しました。

初めに「発声・発音練習」。アエイウエオアオ カケキクケココ…。鼻濁音も正確に。

次に「発音練習文」ア行ウ行。「隣の客はよく柿食う客だ」など、早口言葉のような例題を次々に



声を合わせて発声練習

読み上げ、口のウォーミングアップを約30分間丁寧に行います。私も14ページもあるテキストをお借りして、一緒に声を出しました。

今日の課題は、梨木香歩作『家守綺譚』より「カラスウリ」。順番に音読しますが、人により少しずつ読み方が違い、同じ文章でもいろいろな表現があると感じました。グループでの練習だからこそ、それが確認し合えるのだそうです。練習の合間に、皆さまにお話をうかがいました。

「昨年まで市民文化祭の『芸能フェスティバル』に毎年参加していました。今年は10月28日(日)に、芸小ホール地下スタジオで単独の発表会を行い、一人一作品朗読します。

『舞台朗読』は、会場のお客様に聞いていただいて初めて作品として成立すると考えますので、一年の成果を心をこめて朗読します」

会は毎月第二、四火曜日の昼一時半から公民館で練習しています。「興味のある方はぜひ見学にいらしてください」とのことです。静かな中にも凛とした空気が漂う時間でした。

連絡先 佐伯(575) 1006

〈文・写真 小原正子〉